

人の繋がり方と創造的思考能力との関係

1230497 南部遊登

指導教員 上村 浩

研究背景

近年、インターネットの普及や、新型コロナウイルスの影響により、コミュニティの構築の方法が大きく変化してきている。マッチング・アプリなどのサービスで、人との繋がり方が容易になってきている。一方で、大学などではオンライン授業が実施され、対面でのコミュニケーションが十分には行えず、将来を不安視している声も多くある。

研究目的

本研究は、コミュニケーションのオンライン化による、弱い繋がりを持つ人々の増加が、創造的思考能力に与える影響についての検証を目的とした。

調査・分析方法

弱い繋がりของกลุ่ม (以後 W グループ) と強い繋がりของกลุ่ม (以後 S グループ) それぞれ 3 人ずつのグループに対して、創造性テストを実施した。W・S どちらのグループも 3 グループずつ用意し、以下のテスト課題で創造性テストを行った。

「カンヅメの空き缶には、どんな使い方がありますか。できるだけ沢山あげてください。」

(5 分)

それぞれのグループの回答を 3 つの評価基準に基づいて得点化し、W グループと S グループを比較して分析を行った。

分析結果

流暢性、柔軟性、独創性のどの評価基準の観点においても、W グループのほうが S グループより平均点が高いことが示された。一方、グループ W と S において、すべての評価基準の得点の平均の差を検定したところ、統計的に有意な差は認められなかった。

結論・考察

創造的思考能力は強い繋がりของกลุ่มと弱い繋がりของกลุ่มでは、どの評価基準、合計得点においても、統計的な差は認められなかった。W・S グループ共に、サンプル数を増やして、検証すべきであると考えられる。